

豊中市民による地元文化の継承事業

コース
初動
事業

申込内容

■事業の概要

地元地域のお祭りを中心に春夏秋冬のイベントを企画・運営していくことで、昔はどこにでもあった自分たちの町のコミュニティを再構築し、「ひと・もの・ばしょ」がつながりを生み出していくような仕組みを作る。

■目的

子どもたちの人と人との付き合い方を学ぶ機会の減少、高齢者の孤立化の増加などを問題視し、子どもから高齢者までが、祭りを中心とした「場所・イベント・行事」を通じて、つながりを生み出すような環境を作っていきます。

幸和太鼓青年団こうわのわ

■交付決定額 100,000 円
(事業予算 160,000 円)



◎活動の様子

平成 27 年 (2015 年) 6 月 21 日 (日)、庄内神社社務所 2 階で、ワークショップ「庄内神社の歴史を語り継ぐ会」が開催されました。開会にあたり、代表の加藤竜也さんより、今回のワークショップが豊中市の市民公益活動推進助成事業で行われていること、事業の目的、本日のスケジュールの説明がありました。

第 1 部では、庄内神社の宮司 北島孝昭さんを招き、庄内神社の歴史と庄内の祭りについてのお話を聞きました。庄内村の各社に祀られていた 7 社を合祀し、庄内神社と号したことに始まったことや、大正元年 10 月 16 日に現在の地へ遷座され、翌 17 日に鎮座祭を執行し、その日以来 10 月 17 日を大祭として現在に至っていることなど、当時の背景を織り交ぜながらお話されました。「これからは、祭りを神社主導ではなく住民から盛り上げ、それをきっかけに衰退しつつある地域のつながりや組織を作っていくと地域が活気づくのでは」と北島宮司は話しました。

第 2 部は、『庄内神社の祭りの昔と現在の良い点・悪い点』について、参加者がグループに分かれて話し合い、意見発表を行いました。昔の良い点は、「多くの子どもが参加し、太鼓の担ぎ手も多かった」、悪い点は「地元意識が強く、同じ村の人しか参加できなかった」といった意見がありました。現在の良い点では「女性を含め、誰でも参加することができる」という意見が多く、悪い点では「太鼓の担ぎ手が少なくなった」「太鼓の音に対してクレームが出る」が挙げられるなど活発な意見交換が交わされ、祭りとは何かを伝えていく必要があることを参加者同士で再認識しました。

第 3 部では、『10 年後の未来』をテーマに、「10 年後、庄内神社の祭りがどんな風になっているか」について参加者が発表。「祭りを若者に伝達できていない」、「太鼓の数が減っている」といった課題提



起の意見が出る一方で、「若者に負けずに太鼓を担いでいたい」、「古き良き伝統を守ってやっている」、「参加者や理解者も増やして、岸和田のだんじり祭りのように盛り上がってほしい」のように前向きな意見も多くみられ、北島宮司からの「太鼓や神輿を一度お蔵入りしてしまうと、復興するには何十倍の力が必要なので、今から次の世代に伝えていく努力をしないといけない」との言葉で、閉会となりました。

今回のワークショップを終えて「地域のつながり、人と人とのふれあいの大切さを勉強できた。若者と高齢者との接点を持つことは非常に難しいが、今後も各地域、太鼓に携わる人たちが集まり、このような場をつくっていかれたらと思う」と加藤代表は話されていました。